

防災設備の施工・メンテナンスに注力 松岡産業株式会社（名古屋市中村区）

今回は、非常用発電設備の納入実績では中部地区で高いシェアを獲得している「松岡産業株式会社」（名古屋市中村区名駅南4-10-18、松岡和人社長、☎052-586-2111）を取材した。同社は、ポンプや産業機械に搭載される駆動用エンジン、非常用発電設備、常用発電設備、コージェネシステムなどの販売、設置工事、メンテナンスを行っている。

また、独自の「環境方針」5項目を定め、資機材の仕入れ段階から製品の廃棄段階までを視野に入れたライフサイクルでのCO₂排出量削減にも取り組んでいる。さらに、真に役立つ技術者の育成を目指し、平成25年（2013年）に開設した「松岡産業エンジンスクール」を通じて高度な技能・技術の伝承にも熱心に努めている。

社是として「誠実責任・信頼協調・創意革新」を掲げ、排水機場のポンプに搭載するエンジンや各種発電システムの販売、施工、定期点検、緊急サービス時への対応に取り組む松岡産業を紹介する。

創業の経緯

松岡産業は明治30年（1897年）3月に三重県桑名市で創業した。同市出身の松岡武右衛門氏（松岡和人社長の祖祖父）が、人海戦術に頼っていた土木工事の機械化に着手したことが始まりだ。武右衛門氏は、土木工事現場から出る大量の土砂を搬出するため、鉄道による仮設軌道を建設するとともに、レールを走行するトロッコ（簡易貨車）を製造し、陸軍向けにトロッコ、レールの賃貸、販売を手がけた。

大正4年（1915年）に機械工場を開設し、杭打器具、巻上機、分岐線、ポンプなどの製造を開始した。昭和4年（1929年）、資本金5万円を投じて「合資会社松岡商店」を三重県桑名市に設立し、個人事業所から法人組織へと経営体制を改めた。

松岡商店は昭和7年（1932年）、新たに貨物専用のガソリン機関車の製造を開始した。このガソリン機関車の大量普及により、わが国の土木工事の機械化を進展させ、作業能率の向上に多大な貢献を果たした。昭和16年（1941年）の大東亜戦争の勃発により、同社機械工場は海軍省施設本部の管理下に置かれた。それに伴い、大量の物資輸送に



松岡和人社長



最大のヒット商品となったガソリン機関車

適した運搬車であるガソリン機関車の製造に特化するとともに、ウインチ、コンベアといった土木機械の関連機器の製造に注力していった。ガソリン機関車は日本が治めていた南方洋を含む国内外の建設現場で使用されていた。

昭和18年（1943年）、社名を、合資会社松岡商店から、「合資会社松岡製作所」へと変更した。さらに、昭和19年（1944年）、資本金10万円を投じて「松岡産業株式会社」を三重県桑名市に設立した。度重なる組織改革と併せて、工場設備の拡充に努め、ガソリン機関車の生産台数を月産20台まで増加させた。

しかし、昭和20年（1945年）8月、大東亜戦争の終結と同時に、軍需に依存してきた松岡産業は、生産活動が停止状態に陥った。同年11月に商工省より戦災復興院向けガソリン機関車を受注したこ



松岡武・前社長が受章した旭日双光章（勲五等）



松岡武・前社長が受章した藍綬褒章

とから、いち早く生産活動を再開することができた。昭和21年（1946年）には韓国向けのガソリン機関車も受注した。

昭和24年（1949年）、ヤンマーディーゼル株式会社の中部地区特約店となった。以降は、ガソリン機関車の製造・販売から、排水機場向けポンプや発電機に搭載されるディーゼルエンジンや、建設機械の販売・メンテナンスに事業内容を移していった。昭和33年（1958年）、さらなる営業活動の強化を図るため、桑名市にあった機械工場と、名古屋営業所を、いずれも名古屋市中村区の現在地に移

転した。機械工場ではポンプメーカー向けに各種センサーや除塵機を供給していた。

さらに、昭和39年（1964年）、製造部門、営業部門をそれぞれ松岡工業、松岡産業とする分社化を実施した。そのうち、新たな松岡産業は、資本金300万円で、名古屋市の現在地に本社を置いている。昭和55年（1980年）、本社新社屋を竣工し、現在に至っている。これまで3,000件程度の顧客に対して、排水機場向けにポンプ駆動用エンジンや常用自家発電システム、大手スーパーマーケットの店舗向けに非常用発電システムを納入している。

事業の変遷

松岡産業は現在、汎用エンジン、駆動用システム、電源システムの販売・施工・メンテナンスを一貫して手がけるエンジニアリング企業へと変貌を遂げている。その契機は、昭和34年（1959年）9月21日～27日にかけて、中部地区を中心に日本列島の広範囲な地域を襲った伊勢湾台風だった。この大規模台風は死傷者数4万人を超える甚大な被害を与えた。当時、災害復旧対策の陣頭指揮を執っていた建設省の命令を受けて、災害復旧本部として、松岡産業は名古屋営業所を提供した。

それと同時に、松岡産業は、浸水した地域に溜まった水を強制的に河川へと吐き出すために急

ぎょ整備された排水機場に対して、大量のディーゼルエンジンのほか、ポンプ、汚泥センサー、除塵機を納入するなど、大車輪の活躍をみせた。そうした実績が現在に至る事業活動の礎を築いた。同社の技術力は、排水処理事業に携わる行政関係者や、ポンプ装置、発電装置などのユーザーの間から、高い評価を受けている。

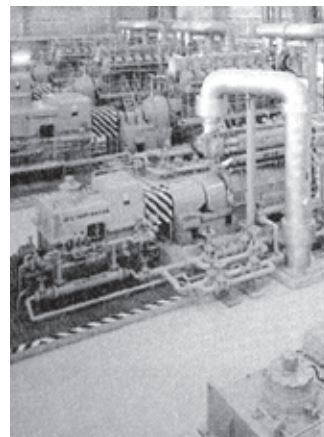
昭和45年（1970年）、建設機械のサービス部門及び製缶部門の拡充を図るため、桑名工場を増設した。昭和48年（1973年）、下水公害防止機械として沈砂洗浄脱臭プラントの研究開発に着手し、翌年、名古屋市下水道局へ同プラントを納入した。昭和61年（1986年）、ヤンマー製ガスタービンを静岡県富士市に納入した。同社がガスタービンを受注したのは初めて。ディーゼルに加え、ガスタービン



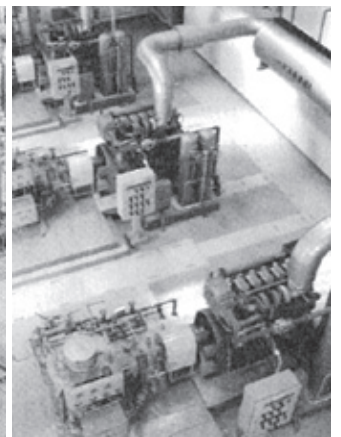
伊勢湾台風での復旧作業



ポンプを提供した排水機場



ポンプ施設



定評ある松岡のメンテ技術



町谷久徳・三重営業所所長



三重営業所職員（左端は本社の森部長）



三重営業所のメンテナンス作業場



松岡産業エンジンスクール

の販売にも注力していった。

平成5年（1993年）、建設機械、発電設備、ポンプ装置の受注増加に伴い、三重県津市に三重営業所を開設した。平成15年（2003年）、防災用発電設備をはじめとする発電システム事業を強化するため、ヤンマーエネルギーシステムと資本提携を行った。平成20年（2008年）、気候変動枠組み条約に関する京都議定書の発祥地である京都から発信された「KES規格」（環境マネジメントシステム・スタ

ンダード、ステップ2）の認証を取得した。

松岡産業では現在、ポンプ駆動用ディーゼルエンジンのほか、非常用発電設備、コージェネシステムといった発電システム、常用発電設備、土木・建設機械の施工・メンテナンスを幅広く展開している。中でも、発電設備に関しては、愛知、三重、岐阜、静岡（一部）の4県を営業エリアとし、累計で3,000件程度の納入実績を誇っている。

注力する分野

松岡産業は今後、4つの分野に注力していく。

1つ目は、創業の地三重県内での営業活動を強化し、売上拡大を図っていく。既存の三重営業所を拡充するため、近鉄線白子（しろこ）駅近くに事業用地を取得し、今年7月1日付けで新たな三重営業所（町谷久徳所長）を開設した。若手従業員7名が三重県全域をカバーし、排水機場、公共施設からの受注拡大を目指す。

2つ目は、東海地方の4県に分布するすべての顧客リストを整備し、顧客に対し、発電設備の定期点検の呼びかけや設備の更新時期に合わせて積極的に営業していく。既に顧客リスト（3,000件程

度）の整備は終わった。リストを活用し、納品後の品質管理やメンテナンス向上につなげていく。

3つ目は、本社ビルに隣接する「松岡産業エンジンスクール」の積極的な活用を進めていく。それにより、災害時に活用される防災用発電設備の適切な維持管理、施工時の環境保全対策、後進の者への技術伝承を図っていく。現在、優れた技能・技術を持つ同社ベテラン技術者が講師を務め、同社従業員、協力会社従業員らを対象にエンジンの構造に関する基礎講習から、エンジンのオーバーホールの実施まで、実務に即した技術指導を実践している。

4つ目は、エネルギー高効率利用を達成するコージェネシステム、地球環境に優しい太陽光発電を積極的に売り込んでいく。